

科学する人

青色LED開発の赤崎勇さん

□ 1 □

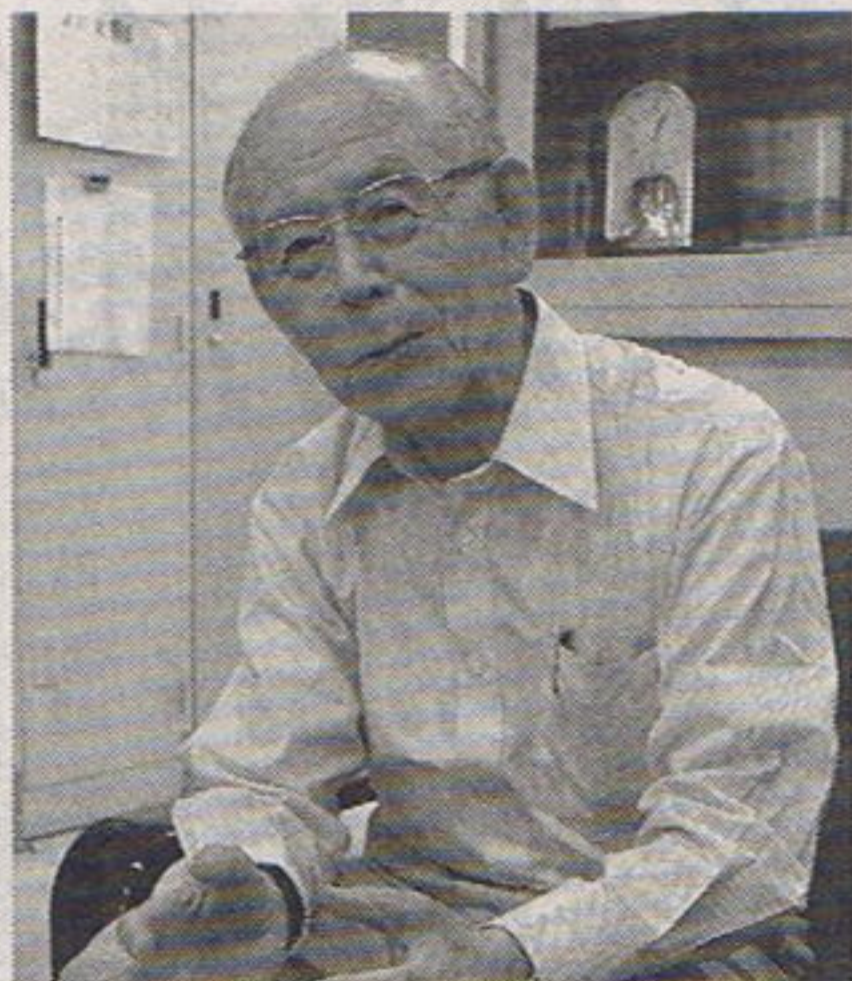
必要な透明できれいな結晶を作るのは難しく、他の研究者らは別の材料に乗り換えていった。赤崎さんらは孤独に研究を続けた。4年後、「pn接合」による明るい青色LEDを実現した。

照明、携帯、身近に浸透

照明、信号機、携帯電話。身の回りに浸透してきた発光ダイオード(LED)。この技術で明るい青い光を世界で初めて実現したのが、名城大の赤崎勇教授(83)だ。

金属線を熱して光る白熱灯と異なり、材料に電圧を加えると直接光を出すLEDは消費電力が小さく、寿命も長い。世界では1960年ごろから研究が本格的に進み、光の三原色のうち赤と緑は実現。ただ青は波長が短く大きなエネルギーが必要で、開発は難航してい

明るい青、初めて実現



赤崎勇名城大教授—9月、名古屋市天白区の名城大

た。赤崎さんは70年代初めから、青色発光素子の材料を「窒化ガリウム」という信念のためだ。だが発光素子に絞った。だが発光素子に絞った。だが発光素子に絞った。だが発光素子に絞った。

青色LEDは、日亜化学工業に在籍していた中村修二・米カリフォルニア大サンタバーバラ校教授(58)が大量生産技術を開発したことが知られるが、赤崎さんはそれ以前に青い光を輝かせた。

あかさき・いさむ 29

××××